

【熊本公德会賞】

私の人生無限大

熊本県立ゆうあい中学校 1年 江藤 栄子

「お母達は何が楽しみ?」「このままでいいと?」突然の娘の言葉でした。子供達もそれぞれ自立し、夫婦二人で別に問題もない。「何が楽しみ?」と聞かれても、これで別にいい、というのが私の答えでした。「今から何ができる?」「今さら」という気持ちが強く、自分から動くこともしていませんでした。でも、心の中には、「何が楽しみ?」「このままでいいと?」という娘の言葉は引っかかっていたのかもしれませんが。ニュースでゆうあい中学校を見たとき、私は「行ってみようかな」とふと漏らしていました。その言葉を聞いた娘は、「行ってみたら」とすぐに背中を押してくれたのです。面接当時、通院していた私はいざ面接の日となるとやはり体調を崩し断るしかないと考えていました。体調に不安を抱えていることを校長先生や担当の先生に話すと、「お二人でどうぞ」と進めてくださり、まさかの夫婦二人で登校ということになりました。通学を始めて、思ってもみないことで一番驚いているのは自分自身です。学校の行き帰りに授業のことを話したり、できたことやできなかったことを話したり、今までとは違った楽しさです。朝の挨拶は、日本語、英語、中国語、ミャンマー語でひととおり話します。外国の方と挨拶できるなんて自分のことながらすごいなあと思います。私は気分の起伏がとても激しく、すぐ人とけんかをしていました。仕事先でも、馬鹿にされたくない。年を重ねているのに知らないと思われたくない。友人にも同じようにいつも腹を立てていました。そんな自分を受け入れることができていませんでした。昔からの友人に、「あなたが今からの人生を前向きに生きていこうと思ったからきっかけをつかめたのよ。」といわれました。ゆうあい中学校に通い始めて、いろいろな可能性があると思うようになりました。「今まで後悔してきた人を見てきたから、何かを始めてほしいの。」と言う友人のありがたさもわかるようになりました。自分を客観的に見てこれまでの自分を受け入れられるようにもなってきました。学び直す事がこんなに楽しいものかと改めて実感しています。ダンスをしたり委員をしたり、新しい事に挑戦しています。クラスメイトの「栄子さんお疲れ様」「栄子さんよかったよ」という声やグータッチ。学び合い一人一人を認め合う。半年前の私に、「あの時の決断はいい決断だったよ。」と言いたいです。最近二人で同じ机で勉強するようになりました。長年連れ添った夫婦でも知らない事がたくさんあります。子供達と勉強の話をするようにもなり、家族の在り方も変わってきました。「妻、母、嫁」ではなく、私を一人の人間として認めてくれることがとてもうれしく、それが自信になってきています。このゆうあい中学校にきて本当に良かった、学び合うことの楽しさを実感しています。